

六花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2024.AUTUMN



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. **50**

特集

新たな価値を生み出す
高度情報専門人材の育成

授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

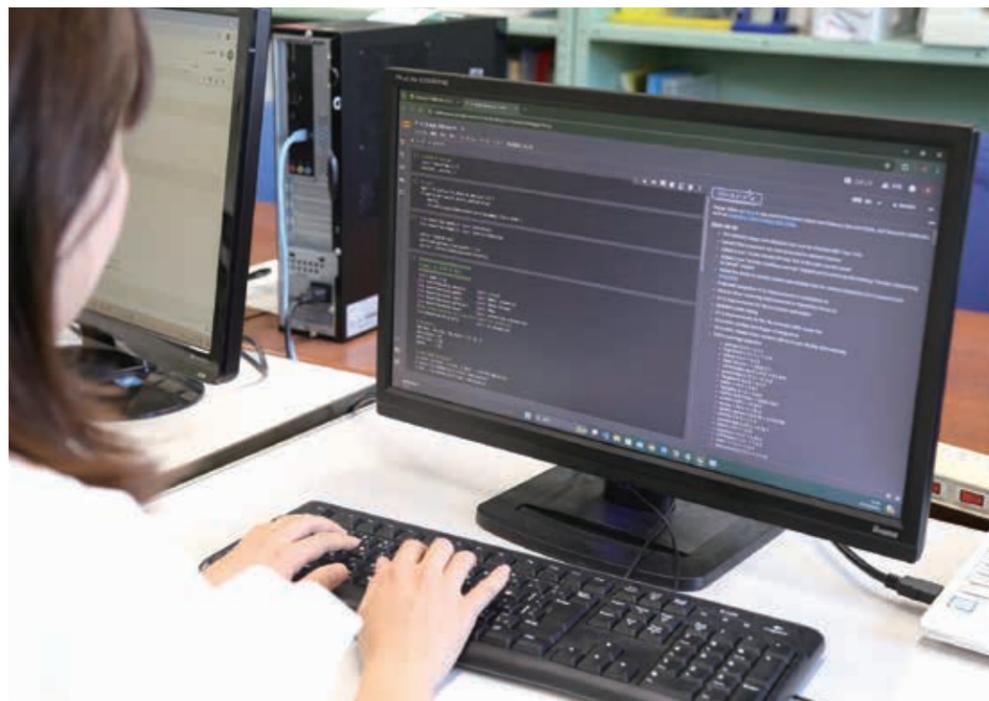
注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information



近年、デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流の中、それらをけん引する高度情報専門人材の育成が求められている。新潟大学では、2025年度から高度情報専門人材の育成に関する取組を強化する。具体的には、工学部工学科知能情報システムプログラムの増員、創生学部へのDX共創コースの設置、大学院自然科学研究科への情報社会デザイン科学コースの設置等が予定されている。高度情報専門人材の育成における大学としての意気込みや、2学部1研究科それぞれの具体的な取組を特集する。



新潟大学 学長 牛木辰男

特集 新たな価値を生み出す 高度情報専門人材の育成

**DX時代に応える
人材育成で
新たな価値を生む**

近年、超スマート社会やデータ駆動型社会の実現に向けて、産業や社会のあり方が大きく変化していく中、AIやビッグデータ、IoT等のDX技術を活用

し、新たな価値を創出できる人材が求められている。特に、日本では、少子高齢化が急激に進行し、労働生産人口の減少が進み、社会的課題の解決、生産性の向上を図るため、あらゆる産業で高度情報専門人材を必要としている。

このような高度情報専門人材の社会的な需要の高まりを受けて、新潟大学では、2025年度から工学部、創生学部、大学院自然科学研究科の入学定員を増員し、教育課程の整備を行う。新潟大学における人材育成の方向性と狙いについて牛木辰男学長に聞いた。

「新潟大学では、これまで

2024.AUTUMN No.50

CONTENTS

- 03 | **特集**
**新たな価値を生み出す
高度情報専門人材の育成**
- 08 | **授業紹介** -教育の現場-
- 09 | **Enjoy! 学生ライフ**
- 10 | **注目される研究報告**
- 12 | **教員によるコラム“知見と生活のあいだ”**
- 13 | **新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所**
- 14 | **基金関係のお知らせ**
- 16 | **Campus Information**



Cover Photo

樹々が色付き、秋の訪れが感じられる五十嵐キャンパス。

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

- @Niigata_Univ_O
- @niigata_university
- @niigata.univ

多様な価値観で ソフトなものづくりに貢献し 社会課題を解決する



工学部長 鈴木孝昌

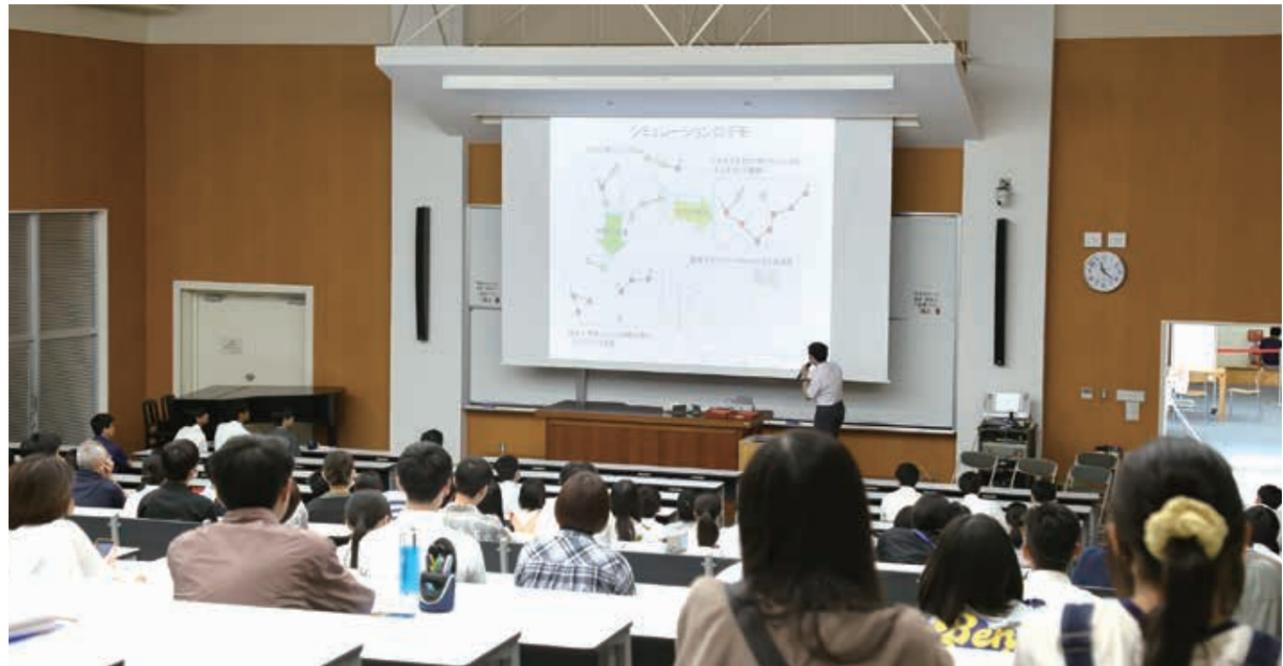
「デジタル分野の人材は社会の発展には必要不可欠ですが、日本は諸外国に比べ、理工系分野に進学する学生の割合が低い状況にあり、脱炭素化など成長分野であるデジタル・グリーンに寄与する人材が大きく不足しています。経済産業省によると、2030年には先端IT人材が、54・5万人も不足するという試算もあります」

大学の情報系分野の体制強化を支援するため「大学・高専機能強化支援事業」を設け、新潟大学は、同事業の「支援2 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」に採択された。情報系分野の研究科や大学院における体制強化を図る取組を対象とするもので、学部段階からの体制強化を行うことも可能となっている。新潟大学はこの支援を受けて、先述した工学部、創生学部、大学院自然科学研究科の情報系分野の入学定員の増員とコースの再編、さらには実務家教員の配置等による教育体制の充実を図る。「これからの社会の要請に応える人材には、新しい発想ができる能力が

問われる」と続ける。
「大学での教育と人材育成は常に変化し続けていかなければなりません。そういう意味で、創生学部はデザイン（学問分野）型ではない学部として、新潟大学の新しい理念を体現しています。いずれは大学全体が創生学部のような文理融合となり、技術的な発想ができる人材を育てる必要があります」

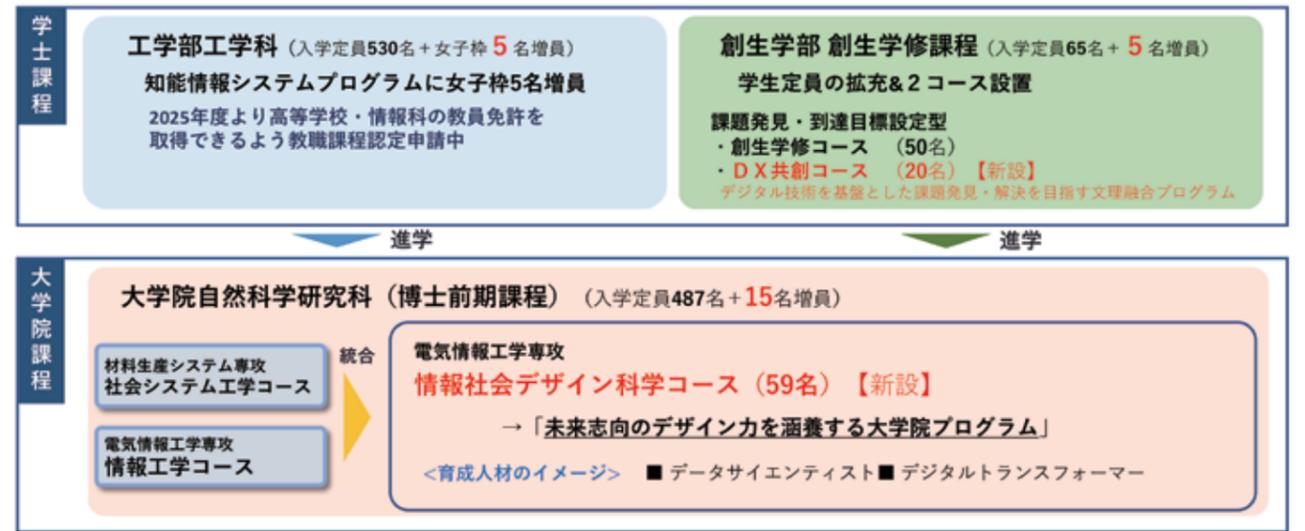
**女子学生の増加が
工学部に研究活力と
多様な価値観を**

続いて各学部・研究科が目指す構想と育成する人材像、今後の具体的な展開について話を



オープンキャンパスで行われた工学部知能情報システムプログラムの模擬授業には、多くの高校生が参加した

2025年度以降の高度情報専門人材の育成



工学部や大学院自然科学研究科において、先端の情報技術を身に付けた人材を輩出してきました。また、全学共同教育研究組織であるビッグデータアクティベーション研究センターを中心として、体系的に数理・データサイエンスを学べる教育基盤を整備し、全学部でデータサイエンス教育の必修化、メジャー・マイナー制におけるマイナープログラムを開講するなど、力を入れてきました。次世代を担う研究者の育成を目指し、中高生を対象にしたプロジェクトも開講しています」

これらの取組に加え、2025年度から高度情報専門人材の育成をさらに進展させる。工学部では入学定員を5人増員し、先端の情報技術の修得をする知能情報システムプログラムに女子枠を設置する。創生学部は入学定員を5人増員。現在の創生学修課程は、創生学修コースとDX共創コースの2コース制となる。そのうちDX共創コースは、デジタル技術を基盤として、融合的視野で課題の発見・解決ができる人材を養成する。文系・理系の学生を問わず実践的な能力を身に付けることが特長だ。

「さらに、これらのプログラムとコースからの大学院課程への進学先として、大学院自然科学研究科博士前期課程の社会システム工学コースと情報工学コースを



理事 [評価・教員組織 担当]・副学長 澤村 明

デジタル分野の人材は 社会の発展に 必要不可欠である

統合し、電気情報工学専攻に情報社会デザイン科学コースを新設します」

入学定員は15人増員となり、高度な情報通信、データサイエンス、デジタル技術、デジタルトランスフォーメーションを学んだ上で、自ら課題分析・目標設定ができ、様々な観点で検討を加え、解決方法を見出せる人材を育成する。

**教育と人材育成は
常に変化し続け
文理融合が進む**

2学部1研究科の入学定員増にはどのような背景や狙いがあるのか。澤村明理事・副学長に聞いた。



洋ナシの外観等級判定にAIを活用する研究なども進められている



オープンキャンパスのプログラミング教室には多くの高校生が訪れ、関心の高さが窺われた

聞いた。
工学部工学科の知能情報システムプログラムは5名を女子枠として増員する。工学部における女子学生の割合は全学と比較して少ないのが現状だ。鈴木孝昌工学部長によれば、女子学生にとって研究者としての将来像を想起するロールモデルが身近に少なく、キャリアに対する不安を抱く「因になっている」という。
「女子学生の増加により工学部内に多様な価値観がもたらされることで教育研究の場に活力が生まれることが見込まれます。工学分野の女性進出を促進し、多様な観点で社会や産業界の抱える課題を見極め、新しい社会価値の創造が行える技術

昨今の社会問題に着目 日常を改革する 新たなアプローチを



創生学部長 中村隆志

者・研究者を養成し、社会へ輩出していきます」
従来の工学分野はハードウェア領域を中心とした技術開発やものづくりが主流だったが、今後はソフトウェアをベースとするソフトウェアのつくりによってDXを推進し、社会課題の解決や社会変革を実現できる人材が必要とされている。

DXで日常を改革 創生学部は 融合的視野を重視

創生学部創生学修課程にはDX共創コースが新設される。データサイエンス・AI等の技術を基盤とし、融合的視野で課題発見や解決ができる人材を養成するコースだ。創生学部では、昨今の社会のデジタル化やそれに伴う社会問題に注目する学生が多いという。「DX共創コース設置の背景には、学生のリアルな志向に適したカリキュラム構想がありました」と中村隆志創生学部長は話す。

「DX共創コースは文理融合プログラムで、従来と比較して、より技術者育成を前提にした教育を行います。新潟大学におけるほぼ全ての分野や他学部の幅広い発想に触れることで、一見DXと関係のなさそうな地域に特化したテーマやアイデアの中から、暮らしと日常を改革する新



大学院自然科学研究科長 松尾正之

しいアプローチができる人材を育てます」

未来志向の デザイン力を涵養する 大学院プログラム

大学院自然科学研究科の博士前期課程では、既存の電気情報工学専攻情報工学コースと材料生産システム専攻社会システム工学コースの既存2コースを統合し、入学定員を15名増員。情報社会デザイン科学コースを新設する。履修モデルは、データサイエンスイスト型とデジタルトランスフォーメーション型の2つ。未来志向のデザイン力を涵養する大学院プログラムとして、高度

先端的な情報と情報技術を使って 新しい社会をデザインする

な目標だ。情報社会デザイン科学コースでは、工学部卒業生だけでなく、創生学部卒業生、さらには他大学や社会人学生等の受け入れも想定している。

情報と技術を 同時に学び 新しい力を導く

これらの学びにおいては、学生には目指すべき社会の姿や研究の到達点を描き、その道筋を未来から現在にさかのぼって考えるバックキャストイング的手法をもって課題を設定し、その解決に向けて活動できる主体性が求められる。未知の課題や未解決の問題に対して独自の研究を深めていく「知の深化」と、解決すべき社会課題に対し関係者と連携して解決策を探していく「知の探索」を併せ持つのが新潟大学が目指すべき人材像だ。再び牛木辰男学長に聞いた。

「それはまさに自らのアイデアを先端的な情報技術を用いて社会実装するスキルであり、新しいものを導く力だと思えます。情報と情報技術を使ってどういう社会をデザインできるのか。



社会課題の解決のためには常に複数の要素を組み合わせる必要があります。大学は考える力を学ぶ場所であり、知識だけを学ぶ場所ではありません。今後の社会はますます大学による人材育成を必要としてくるでしょう。新潟大学は総合大学であることをいかし、融合型人材の育成で特色と存在感を出していきます。自治体や企業等で急務となっている、デジタル分野の人材育成についても、大学院で社会人学生や科目等履修生として受け入れ、先端情報技術を学んでいただくことで、地域のデジタル人材の確保に寄与したいと考えています」

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は30人。活動は週1回。毎週土曜に新潟大学五十嵐キャンパスのアーチェリー場で練習している。

アーチェリー部

部としての団結力と個人の集中力を磨き、的を狙う

アーチェリー競技の1射の最高得点は10点。72射し、合計点を競う。集中力を問われるスポーツだ。「競技中は自身のリズムやフォームが崩れないよう、細かい手順の見直しや修正を行うことが求められます。『練習は本番のように、本番は練習のように』と言われるように反復練習が重要で、失敗しても気持ちを切り替える力が必要です」と部長の渡邊羽哉さん。活動ペースは週1回。自主練習を行う部員

も多い。標的などの準備は1人ではできないため、常に部員同士で協力する必要があります。「アーチェリーは個人競技ですが、部活では団結力を重視しています。試合中にはチームメイトがリラックスして射ることができる雰囲気を作るよう心掛けています。入部時点では初心者が多い部活ですが、先輩方の時代からの積み重ねがあり、主体的に工夫をし続けることが部としての成長につながっていると感じます」

→北信越学生アーチェリー連盟主催大会を勝ち進むと、全日本学生アーチェリー王座決定戦などに出場できる。団体は3人の合計点を競うトーナメント方式



競技力の向上には団体でも個人でも積み重ねが大切です

部長 渡邊羽哉さん (工学部3年)

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、随時お届けします！ぜひダウンロードください。

App Store



Google Play





ホップ・アンニヤ准教授

Hopf Anja

Profile 修士(日本学)。ドイツ語教育の研究と実践を行う。ドイツと日本の近現代における消費文化やアートを美術史や文化的視点から考察する。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

人文学部

『ドイツ語インテンシブ I A / I B』

語学には楽しさが必要
ドイツへの興味を広げ、学習意欲を喚起

「全学部対象のGコード科目『ドイツ語インテンシブ』は、人文学部1年次の選択科目。2年次からのプログラムに際し、ドイツ語専攻につながる重要な科目だ。基礎ドイツ語と簡単な日常会話の習得を目的とし、実際に発音しながら「話す、聞く、読む、書く」という4つの言語能力をバランス良く養成する。担当のホップ・アンニヤ准教授に聞いた。「新しい言語を学ぶことは楽しく視野が広がります。外国語を学ぶためには音楽やスポーツと同じく、地道にコツコツと勉強をするこ

STUDENT'S VOICE



左:小林友哉さん(人文学部2年)
右:佐藤智萌さん(人文学部2年)

「高校の倫理の授業を通してドイツ語に興味を持ちました。1年次にこの授業で基礎を学んだことで、現在はさらに難しい内容を理解できていると思います。ドイツ語検定の合格を目指して勉強をがんばっています」(小林)「サッカーをきっかけにドイツ語に興味を持ちました。1年次後期の授業ではドイツ語の絵本を用いて死生観を分析し、ドイツの文化や慣習への理解が深まりました。2024の夏にはドイツに1カ月の留学をしました」(佐藤)

授業が始まると学生はくじを引き、4人グループを編成する。初めてドイツ

とが大切です。そのためには学生が途中で投げ出さず、授業自体の楽しさが重要だと考えています。学生がリラックスして課題に取り組めるような雰囲気作りを心掛けています」



↑チューターのシャンタル・シュミットさん(左)とホップ准教授(右)

「学生は同世代のチューターと気軽にドイツ語で会話をし、授業外でもFLSのドイツ語チャットで交流することが出来ます。ドイツ語の文法や会話を基礎からしっかりと学ぶことはもちろん、ドイツ語圏の文化や歴史、社会に興味を持ち続けることも語学習得には重要です。それがドイツ語を継続して学ぶモチベーションにつながると思います」

また、授業では生のコミニケーションを重視し、協定のドイツ・ボーフム大学からの留学生がチューターで参加する。

語を学ぶ学生や、大学に入学したばかりの1年生が緊張しないよう、また、友人を作るきっかけにしてほしいというホップ准教授の配慮だ。

—小児医療宿泊施設—

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

病気と闘う子どもと、その家族と一緒にいられますように。

ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はこちら



お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究
題目

膜透過ペプチドを用いた ドラッグデリバリーの開発

高分子細胞内導入のメカニズムを解明し 副作用の少ない分子標的薬の開発に貢献

ヒトの体を構成する細胞の中に、薬物などの生理活性物質を送り届ける技術「DDS（ドラッグデリバリーシステム）」を可能にする「膜透過ペプチド」の開発が近年注目されている。奥田明子准教授は、膜透過ペプチドを用いた細胞内物質導入法について研究を進める。

「細胞は細胞膜によって内外が隔てられており、タンパク質や抗体、酵

素といった高分子（大きい分子）は単体では細胞膜を透過できません。膜透過ペプチドは、その名の通り細胞膜を通り抜けることができるため、タンパク質などの目的物質と結合させることで、それらを細胞の中へ移行させることができます。そういった高分子を標的となる細胞内へ効率的に送達する、膜透過ペプチドの開発に取り組んでいます」

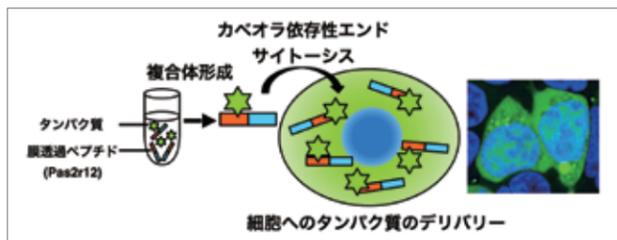
1988年のTATタンパク質による細胞内移行の発見を皮切りに様々な膜透過ペプチドが報告されている中、2019年、奥田准教授は新しい配列に基づいた膜透過ペプチド「Pas2r12」を開発。ヒト由来の培養細胞を使った実験を通して、高分子がサイトゾルに移行することを証明した。

「これまでの膜透過ペプチドは、細胞膜は通過するもののエンドソーム内に閉じ込められ、細胞内で効果を発揮するに至りませんでした。改良した

アルギニンに疎水性の配列を加えたPas2r12では、抗体がエンドソームを抜け出し、サイトゾルで拡散することが確認されました。膜透過ペプチドが標的となる細胞内へ移行するには、細胞膜成分との相互作用が重要となってくることから、今後は細胞表面の受容体にも着目し、新たな膜透過ペプチドの開発やそれぞれの特性を生かした導入方法を見いだしていければと考えています」

膜透過ペプチドを用いたDDSは、臨床応用やがん治療をはじめとする最先端治療の助けになることが期待されており、現在も世界中で活発な研究が継続されている。

「薬剤を必要な時間に、必要な場所へ、必要な量だけ作用させる技術が確立されれば、新たな治療薬はもちろん、副作用の軽減にも大きく寄与できます。タンパク質の細胞内導入など、解明しなければならないメカニズムや問題点はまだまだありますが、海外の研究者や製薬会社とも連携を図りながら、狙った細胞に高分子を届ける技術開発のさらなる発展を目指します。そして、その先にある細胞内分子を標的とした高分子薬の開発や臨床応用につなげていきたいです」



膜透過ペプチド (Pas2r12) によるタンパク質デリバリー。Pas2r12とタンパク質を試験管内で混合し、複合体を形成。これを細胞の培養液に加えることで、高分子が細胞内へ取り込まれる

研究
題目

新品種開発と栽培対策で 高温に負けないイネをつくる

猛暑を前提とした米作りを研究 日本の稲作の未来に貢献する



新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センターでは、新潟市西区新通にある約2ヘクタールの圃場でコシヒカリや新大コシヒカリ、酒米の越淡麗、新品種などを作付けしている

記録的な高温が続いた2023年夏、新潟県の主要な米品種であるコシヒカリの1等米比率は4.7%と過去最低水準になった。等級低下は生産者の収益に大きく関わるため、将来的な生産者減少も懸念されている。

「イネが生長する登熟（とうじゅく）期に高温にさらされたことで、でんぷんの合成が阻害されました。その結果、玄米が白濁化しやすくなり、検査等級の低下に影響を及ぼしました」と、ゲノムを使った遺伝子解析でイネの新品種を研究する山崎将紀教授

は話す。新品種開発のためにコシヒカリと交雑する3,567系統のイネを育て、高温に強い遺伝子を持つ新品種を発見。また、肥料の追加やバイオスティミュラント（化学薬品）の併用が高温対策に効果的なことも実証した。

「新品種は試験栽培を続けて2～3年後の登録を目指しています。今後も続くと考えられている温暖化等の気候変動に対応し、生産者の期待に応えるため、様々な新品種や対策を準備することが研究者の使命だと思



農学部
山崎将紀 教授

Profile | 博士(農学)。専門は遺伝育種学と作物学。イネを対象に遺伝子や新品種の育成、生産者ができる栽培の研究を行う。新潟県が主催する2023年度産米に関する研究会の座長を務める

っています」

新品種の実用化には費用と時間が必要だ。2023年と2024年、新品種開発や高温対策のためにクラウドファンディングを実施。目標額を大きく上回る支援を集めた。

「クラウドファンディングを行ったことで、県内の生産者や県産コシヒカリの消費者が多い関東圏からも期待以上の反応をいただき、一般の方々にも理解が広がったと感じています。いただいた寄附を活用して今後は暑さに強い新品種を作るとともに、暑さに強いイネの遺伝子メカニズムの解明を目指します。新潟県の稲作に貢献できるよう、若い生産者たちとも栽培対策について対話を重ねていきたいと考えています」

特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料



入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話：025-262-7891

(受付時間 平日 10:00~15:00)

E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

2024年、
新潟大学は
創立75周年を
迎えます



←平成3年頃の五十嵐キャンパスの様子(平成3年度経済学部案内より)

↑菅原名誉教授が着任間もない頃の五十嵐キャンパス(昭和61年度大学概要より)

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



すがはらようしん
菅原陽心
新潟大学名誉教授

経済学博士。専門は経済原論。アジア経済や改革開放期の中国経済を研究。昭和59年新潟大学商業短期大学部講師。平成6年新潟大学経済学部教授。経済学部長、人文社会・教育科学学部長、理事・副学長を歴任。平成29年定年退職し、令和4年より新潟青陵大学短期大学部学長。

自身のゼミはにぎやかだった。教材に新書を採用し、1回の授業で1冊を課題として読ませたこともあったという。

「学生には『テキスト代が高くつく』と言われましたが、国内外の様々な思想に触れ

ていました」

「商業短期大学部では佐渡二泊の新入生合宿研修があり、盛り上がりしました。最終日、船を待つ時間、両津湾を眺め、焼き魚を食べながらの反省会も忘れられません。経済学部の資料室の下に日本海、佐渡が見渡せる部屋があり、そこでの歓談も心に刻まれています」

立った。

平成6年から経済学部の教授として教壇

に残っている。その後、五十嵐キャンパスに移り、

松の木から雪がドサツと落ちた音が記憶に

残っている。その後、五十嵐キャンパスに移り、

平成6年から経済学部の教授として教壇

に残っている。その後、五十嵐キャンパスに移り、

とあります」

話すことは、今後ますます重要になってく

るはず。新潟大学はこれからも主体性

のある人材を輩出する大学であってほしい

とあります」

「相手と対話することで理解を深めてい

くのは学生も教員も同じ。対話に必要なの

は自分の目で見、頭で考え、意見を持つこ

と。今はSNSの時代と言われ、世界は混

沌としています。自分で考え、自分の言葉で

話すことは、今後ますます重要になってく

るはず。新潟大学はこれからも主体性

のある人材を輩出する大学であってほしい

とあります」

COLUMN ◆新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第32回は脳研究所です。

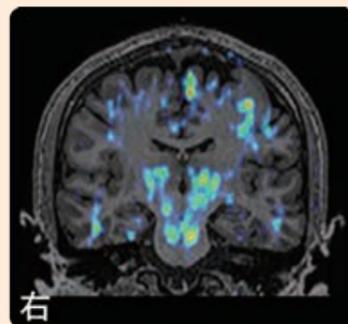
第32回●脳研究所「ごみ拾いできれいな街並み、きれいな脳環境を実現!？」



↑脳の中のごみ拾い
※この画像は画像生成AI(Dall-E-3)で作成しました

新 潟市の夏の風物詩として、「新潟まつり」があります。残念ながら例年帰省のために参加がかなわらないのですが、所用を終えて戻った新潟市は、まるで祭りなどなかったかのように、いつものきれいな街並みで私を迎えてくれます。これは新潟まつりの翌朝に、ボランティアの方々が行う清掃活動のおかげであると感謝しています。

ちょっと古いデータ(2015年)で恐縮ですが、新潟市は清掃活動(新潟まつりの翌朝清掃や海岸一斉清掃など)への参加人数(約14万8千人)が政令指定都市の中で第3位、参加率(18.5%)は第1位であったそうです(新潟市調べ)。ごみがたくさん発生しても、ごみを拾うたくさんの人たちがいるおかげで、街中にごみがあふれなくて済むわけですね。ところで私たちの頭の中にも、様々なごみがたまることがあります。このごみ(「異常タンパク質」



↑脳研究所で撮像した脳内のごみをとらえた画像(タウPET)。明るいカラーがついている脳部位に、タウと呼ばれるごみが蓄積し、神経障害を引き起こしている。

と呼ばれる)は、アミロイドβ、タウ病変、シヌクレイン病変など多様で、認知症やパーキンソン病などの脳疾患発症との関連が疑われるとともに、多くは加齢によってもたまりやすくなるのが知られています。脳内にはこのようなごみがたまりやすくなった時に、ごみを処理してたまらないようにしてくれる「清掃ボランティア」のようなシステムがあります。年を重ねてこの清掃システムの働きが弱ると、ごみが処理しきれずに脳内にごみがたまりやすくなると考えられます。また若くて清掃システムの働きが十分にあっても、何らかの理由で処理しきれないくらい大量のごみが発生すると、脳内にごみがたまって脳疾患を発症することがあるとも想定されています。

私はこれまで、陽電子放射断層撮像(PET)という装置と検査用の薬を用いて、脳の中にとまるごみを画像で見えるようにする研究を行ってきました。これまでの研究で、脳にたまるごみと脳疾患でみられる様々な症状との関連を明らかにしたり、このごみを取り除く治療薬の開発を助ける技術を開発したりしてきました。さらに現在、今度はこのごみを処理する清掃システムの中でも、オートファジー・リソソームシステム(※2016年のノーベル生理学・医学賞は、このシステムの仕組みを解明した大隅良典博士が受賞されています)に注目をして、清掃システムの機能を評価する新しい画像化技術の開発に取り組んでいます。この研究の先に、新潟市の街並みのようにきれいな脳環境を守る、脳疾患の新しい予防・治療法が見えてくることを楽しみにしています。

島田 斉
脳研究所
統合脳機能研究センター
(臨床機能脳神経学分野)



認知症やパーキンソン病などを対象とした画像研究を行っている。神経内科専門医、認知症専門医、核医学専門医として臨床業務にも従事。休日の楽しみは愛犬(※世界一可愛い)との散歩。

75th Anniversary
NIIGATA UNIV. 1948-2024
新たな挑戦
大きな貢献

創立75周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細はこちら

お問い合わせ
創立75周年記念事業準備室
TEL: 025-262-5626
E-mail: niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp

■Niigata University Giving Campaign 2024

各大学の支援者ネットワークの拡大・活性化と寄附文化醸成を目的とし、全国の企業から募った協賛金を、イベント期間中に大学生の団体(部活動・サークル)が集めた応援数などに基づいて、各大学の基金および各団体に寄附として配られる仕組みです。キャンペーンは株式会社Alumnoteが運営し、新潟大学が主催しています。



■参加団体

陸上競技部 にいがたカレッジキャット 競技スキー部 競技ダンス部 弓道部 男子バスケットボール部 アカペラサークルMUSE	自転車競技部 新潟大学馬術部 音楽倶楽部 落語研究部 女子バスケットボール部 コンピュータクラブ 男子ラクロス部	新潟大学合唱団 硬式野球部 表千家茶道部 医学部スキー部 アメリカンフットボール部 MMC(Modern Music Club) CRESCENDO	学生団体CANs 学友会サッカー部 学友会基礎スキー部 軽音学部 ボート部 体操競技部 ラグビー部	探検部 準硬式野球部 女子ラクロス部 オリエンテーリング部 邦楽部 吹奏楽部 参加34団体
---	--	--	---	---

■開催期間

令和6年10月11日(金)から10月20日(日)

トピックス

■トピックス1

田中産業株式会社様に感謝盾を贈呈しました

田中産業株式会社様より「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた運営支援募金」へご寄附を賜りました。7月4日(木)、牛木学長、末吉理事、塚本理事が田中産業株式会社本社を訪問し、同社代表取締役 田中康生様に感謝盾を贈呈しました。いただいたご寄附は、ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたを利用する子どもたちと、そのご家族のために大切に活用させていただきます。



出席者による記念撮影

■トピックス2

新潟大学全学同窓会からの寄附金受贈式を行いました

令和6年10月8日(火)、学長応接室にて、全学同窓会からの「新潟大学創立75周年記念募金」への寄附金受贈式を開催しました。受贈式では、全学同窓会 白杵勇人会長より「卒業生約16万人すべての思いとして、新潟大学の更なる発展や、在学生の教育活動等の充実のために有効活用してもらいたい」とのお言葉があり、牛木学長に目録が贈呈されました。頂いたご寄附は、新潟大学将来ビジョン2030の実現に向けた取組や学生の課外活動施設整備等のために大切に活用させていただきます。



前列左から寺尾副会長、白杵会長、牛木学長、高木同窓会理事
後列左から江口主査、末吉理事、坂本理事

■トピックス3

ネーミングライツ事業を始めました

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。ネーミングライツ事業とは、契約により、本学が事業者等に本学の施設の別称等を決定する権利である命名権を付与し、命名権を取得した事業者等からその対価として命名権料を得る事業を言います。



遺贈によるご寄附

■遺贈とは

遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、サポーター連携推進室へお問い合わせください。

新潟大学遺贈寄附ページ <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/legacy/>

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧ください。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

—学生の輝く未来を共に創る— 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R6.6~R6.8寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉石田 武裕 奥 輝之 栗原 幸二 佐藤 純一 庭山 昌俊 匿名希望7名
〈団体〉株式会社文善

~優秀な大学院生の研究を応援~ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、「新潟大学フェロウシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R6.6~R6.8寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉石田 武裕 匿名希望4名
〈団体〉久保誠電気興業株式会社

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R6.6~R6.8寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉青海 道寛 荒木 百合子 五十嵐 幹郎 石塚 崇 石山 壘 板場 浩 伊藤 順治 伊野 義博 今津 晴高
上田 潤 上野 洋子 宇梶 康夫 江口 正樹 大浦 直満 岡崎 篤行 岡田 正彦 小川 哲也 小黒 夏子
笠井 博 風間 正 梶原 謙一 片峰 茂 加藤 信一 角谷 ヒサ 金子 紀久夫 金子 淳一 上村 統
上村 顕也 川上 温 川島 和弘 河内 康之 神田 武司 菊地 実 北見 麻衣 久住 恵子 五箇野 琴
五箇野 笙子 越村 尚貴 後藤 真紀子 小山 翔子 坂井 潔 坂口 愛実 笹川 和史 笹川 基 笹本 龍太
佐藤 渥子 佐藤 祥次 佐藤 史人 佐藤 正道 佐野 正俊 澤田 宏二 椎井 慎太郎 島田 裕 清水 正喜
新保 淳輔 杉野 ゆかり 鈴木 恵子 鈴木 輝雄 須田 扶佐子 関 秀行 高岩 由紀夫 高瀬 美加 高橋 智
高橋 菜奈子 滝澤 哲也 建入 芳昭 田中 環 田辺 雅之 谷川 ちぐさ 田村 省三 辻村 恭憲 土田 克則
土田 啓子 土田 利康 常木 正則 寺尾 正義 東海林 洋一郎 徳江 郁雄 富原 圭 中川 聡 長澤 美奈子
中島 寛 中島 洋子 中野 ひとみ 中野 優 中野 広司 堀 丈昌 仲村 スイ子 中山 元木 藁田 学 庭山 昌俊
野口 公聖 野村 章子 橋本 良崇 橋本 裕之 長谷川 裕之 堀 米 恒好 堀米 恒好 松浦 尚登 平原 史人
廣瀬 雄一 廣田 巨樹 藤林 紀枝 降旗 輝彦 堀 潤一 堀 米 恒好 森 恭一 森 勇造 森田 和人 茂呂 良彦
松岡 道彦 村上 まゆみ 村田 雅史 村山 弘義 茂木 智弘 森 恭一 森 勇造 森田 和人 渡邊 景亮 渡邊 浩匡 匿名希望118名
山崎 友子 山田 佳苗 横野 知江 吉塚 康一 吉原 修英 若槻 良宏

〈団体〉あがの市民病院売店 株式会社有沢製作所 株式会社ウィザップ 株式会社植木組 越後ファーム株式会社 久保誠電気興業株式会社
株式会社熊谷組 株式会社興和 株式会社コーシン コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ベンディング新潟支店
サントリービバレッジソリューション株式会社 JA新潟厚生連柏崎総合医療センター売店 JA新潟厚生連けいなん総合病院
JA新潟厚生連上越総合病院 JA新潟厚生連新潟医療センター JAバンク新潟県信連 株式会社ジェイマックスソフト 第一電設工業株式会社
胎内電建工業株式会社 株式会社南雲製作所 株式会社ナルサワコンサルタント 新潟医療生活協同組合木戸病院
新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係 新潟県立新潟高等学校 新潟総合警備保障株式会社 新潟大学生生活協同組合
新潟大学附属新潟小学校教育振興会 新潟大学附属新潟小学校父母教師会 新潟大学附属新潟小学校職員一同 新潟ニッタン株式会社
株式会社新潟ビルサービス 新潟附属同窓会 株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟 株式会社廣瀬 株式会社文善
北越工業株式会社 株式会社和光ベンディング 匿名希望7団体

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

【令和6年度から入会の新規会員のご紹介】

〈個人〉金子 哲
〈団体〉北川グレストック株式会社 久保誠電気興業株式会社 株式会社品田電業社 株式会社ソリマチ技研 株式会社ナカノアイシステム
新潟冷蔵株式会社 NA&HRコンサルティング社会保険労務士法人 本間電機工業株式会社

■御礼 いつも新潟大学をご支援いただき、誠にありがとうございます。サポーター連携推進室室長補佐の服部です。今夏、新潟大学創立75周年記念式典の案内状を持参させていただきました。事前連絡なしで訪問したにもかかわらず、ご対応いただき誠にありがとうございました。各社より様々な現状やご意見も伺うことができとても勉強になりました。また創立75周年記念募金として、皆様よりたくさんのお気持ちをいただきましたこと厚くお礼申し上げます。今後どうぞよろしく願いいたします。 サポーター連携推進室 室長補佐 服部正人

最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/club2024.8.pdf>

クラウドファンディング

■目的 インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿 (R6.6~R6.8寄附入金分)※(50音順 敬称略)
プロジェクト名:世代間コミュニケーションを育成するボードゲームの開発/プロジェクト実行責任者:松本 多恵
〈個人〉大前 誠 落合 博幸 楠野 嘉文 後藤田 中 田中 健登 田中 孝英 西山 純一 羽賀 忠大 細越 妙佳 細越 宜貴 匿名希望7名
〈団体〉日本印刷出版株式会社 匿名希望1団体

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

創立75周年記念学生支援SDを実施しました



本学では、7月2日、学生を指導・支援する本学職員を対象に、中央大学陸上競技部駅伝監督である藤原正和氏をお招きし、「寄り添う指導と支援」と題した学生支援SD (Staff Development) を実施しました。

本SDは、創立75周年記念募金による五十嵐・旭町キャンパスの健康スポーツゾーンの整備を推進している中、施設等ハード面での整備だけでなく、指導や支援などソフト面の充実も図ることを目的として実施したものです。

会場の中央図書館ライブラリーホールには、教職員約80名が詰めかけ、藤原氏によるご自身の経験談を交えた、学生に直接関わる立場から考える指導と支援についての講演

を皆熱心に聞き入っていました。講演後の質疑応答でも積極的な意見交換がなされ、有意義なSDの機会となりました。本学では今後も学生支援に資する職員の研修等を行ってまいります。

本学経営戦略本部ダイバーシティ推進センターが「第10回女性技術者育成功労賞」を受賞しました

本学経営戦略本部ダイバーシティ推進センターは、2024年8月に一般社団法人技術同友会「第10回女性技術者育成功労賞」を受賞しました。同賞は、女性技術者(女性研究者含む) 育成における顕著な功績を表彰しているものです。

今回の受賞は、優れたものづくり技術を持つ企業が多い新潟で地域を支える人材を輩出してきた本学が、男女共同参画及びダイバーシティ推進に向けて様々な施策に継続的に取り組み、女性教員比率並びに女性教授比率を大幅に向上させたことや、部局がそのニーズに基づいて主体的に環境整備を行うためのプロジェクトを推進した功績が認められたものです。

経営戦略本部ダイバーシティ推進センターでは、今後も全学をあげたダイバーシティ推進のため、様々な取組を実施していきます。



災害・復興科学研究所が東京管区気象台長表彰を受けました



本学災害・復興科学研究所は、「新潟県中越地震以降の長きにわたり災害の予防・軽減に資する技術協力など気象行政に寄与した功績」により、2024年6月1日付で東京管区気象台長表彰を受けました。この表彰は、東京管区気象台管内で気象業務の発展に寄与した団体および個人に対して贈られるもので、気象台が提供する大雪に関する各種情報の精度向上、県内で発生した様々な自然災害に対する迅速な緊急調査の実施、地域防災支援としての普及啓発活動への貢献等の活動が評価されたものです。

災害・復興科学研究所では、今後も新潟地方気象台と連携した活動を推進し気象業務の発展に寄与してまいります。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2024.AUTUMN No. 50

発行/2024(令和6)年11月
編集/新潟大学広報室
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。